

平成 OSAKA 天の川伝説 2014

7月7日／大川・天満橋～北浜周辺

主催:平成OSAKA天の川伝説推進会議

(関西・大阪21世紀協会
平成OSAKA天の川伝説実行委員会)



夜空の「天の川」を天満の川に再現する『平成OSAKA天の川伝説』が、今年も七夕の夜に開催された。

第6回となる今年は、八軒家浜やふれあいの岸边(天神橋南詰)、天神浜(同北詰)へとエリアを拡げ、約5万個の「いのり星[®]」(LED光源を内蔵した光球)を放流。約4万8千人が幻想的な光景を楽しんだ。

イベントが行われた天満橋一帯は、難波宮が営まれた頃、国の平安と疫病退散を星に託して願う地であった。そのため「天神祭」も古くは7月7日に行われた。平安京に遷都されて以降も、新しく即位した天皇は、この地

で行われる「八十島(やそしま)祭」に使者を遣わし、大海原の生命力を身につけたと伝えられている。

この国生みの祭祀や星賑信仰に彩られた『平成OSAKA天の川伝説』は、大阪の夏の風物詩として、また『大阪城フェスティバル(7月1日～10月8日)』のキックオフイベントとして位置づけられている。

午後7時、故事にならって、大阪天満宮と生國魂神社の宮司による水都大阪の発展と安全成功を願う神事でスタート。八軒家浜棧橋の特設舞台上、増田いずみさん(オペラ歌手)、安藤史子さん(フルート)、平山朋子さん(ピアノ)による七夕コンサートの優雅な調べが響くなか、多くの来場者がいのり星[®]を放流し、祈りを捧げた。

また今年は、「天の川カクテル」が登場したことで話題になった。創作者は、日本を代表するバーテンダー・林壮一さん(BAR CADBALL:大阪市中央区)。赤紫蘇や柚子といった旬の和風材料を使い、アルコール度数を抑えたさっぱりとした口当たりは、この季節ならではの美味しさ。薄紫色の夜空と銀色の天の川、寄り添う彦星と織姫を表現したロマンチックな飾り付けで、浴衣姿のカップルに似合う夏ならではの一品に仕上がっている。

「天の川カクテルがこのイベントひいては地域活性化の一助になれば嬉しい」という林さん。カクテルの種類はまさに星の数ほどあるが、七夕といえは「天の川カクテル」そして「平成OSAKA天の川伝説」を思い出してほしいという願いを込めて、平成OSAKA天の川伝説推進会議公認のカクテルとなった。



八軒家浜棧橋特設ステージでの「七夕コンサート」
増田いずみさん(オペラ歌手)、安藤史子さん(フルート)、
平山朋子さん(ピアノ)

平成OSAKA天の川伝説推進会議公認 天の川カクテル

ビフィータージン、柚子リキュール、赤紫蘇シロップ、レモンジュース、ブルーキュラソーをシェイク。グラス表面に蜂蜜でつけたアラザンで「天の川」を、星型に抜いたグレープフルーツとリンゴの皮で彦星と織姫を表現(BAR CADBALLにて)。



林 壮一さん(BAR CADBALL)

バーテンダー歴25年のベテラン。2000年にバーテンダーの世界コンクール「ビフィーター・インターナショナル・カクテル・コンペティション」に日本代表として参加しグランプリを受賞するなど、国内外から一目置かれている。

「天の川カクテル」が飲めるところ ※旬の素材を使用のため数量限定で販売

BAR CADBALL(カドボール) 大阪市中央区石町2-2-20 近松ビル1F ☎06(6944)2918

ルポンドシエル 大阪市中央区北浜東6-9 ルポンドシエルビル ☎06(6947)0888

大阪キャッスルホテル「メイン・バー 川面」 大阪市中央区天満橋京町1-1 大阪キャッスルホテル7F ☎06(4790)2400

南大阪・上町台地フォーラム ～文化と歴史の宝庫・堺市を訪ねる～

4月4日／堺市

主催：関西・大阪21世紀協会



日本で8番目に大きいニサンザイ古墳(反正天皇の空墓)にて



土塔(大阪府堺市中区土塔町)にて

中世日本最大の玄関口であった堺市を、3回にわたって訪れる企画の第一回。堺市役所21階展望台に集合した一行24名は、地上80メートルからの絶景を楽しんだあと、堺市博物館に移動して百舌鳥古墳群の発掘調査の結果や、仁徳天皇陵から出土した兜や鎧の模型などを見学。学芸員から、仁徳天皇陵の築造には16年の歳月をかけて200万人以上が従事したことや、その仕事は苦役ではなく食糧も支給されて和やかに進められたことなど、数々の興味深いエピソードを聞いた。

その後、堺観光ボランティアの案内で、仁徳天皇陵古墳や履中天皇陵古墳などの百舌鳥古墳群を視察して回った。さらには奈良時代の高僧・行基によって築かれた、日本で唯一の土と瓦で造られた仏塔「土塔(どとう)」など、堺の歴史の多様さ奥深さを知る視察会となった。

伝統文化の保存・継承 御田植神事

6月14日／住吉大社(大阪市住吉区)

神田代舞(みとしろまい)を奉納した御稔女(みとしめ)役の大葉晃子さん



中央舞台上で八乙女たちが田舞を舞うなか、植女の代わりに御田植をする赤いたすきの替植女たち。



早苗を受ける植女(第一本宮)

穀物が豊かに育ち、稲穂が実る秋を迎えるため、毎年恒例の「御田植神事(重要無形民俗文化財)」が行われた。住吉大社ではとくに華やかで古式を多く遺している神事で、植え付けられる苗には強力な穀霊が宿るといわれている。

211(摂政11)年、神宮皇后が住吉大社の鎮座に際して神田を定め、長門国(現在の山口県)から植女を召して御田植奉仕をさせたのがはじまり。明治に入って境内の土地が民間に払い下げられてしまったが、大阪新町廓が御田を買い上げ、芸妓が植女となって神事廃絶の危機を救った。現在は関西・大阪21世紀協会(上方文化芸能運営委員会)などが、大阪の誇るべき伝統文化・神事芸能として支援している。

この日は多くの参拝者が御田につめかけ、萌黄色の装束をまとった植女や御田に設えた舞台での神田代舞(みとしろまい)などに見入った。

交流サロン21café これからのまちづくり

6月12日／田中清剛氏(大阪市副市長) 於：中之島プラザ(大阪市北区)

主催：関西・大阪21世紀協会



田中清剛氏

大阪市建設局長として活躍し、退職後の2012(平成24)年から大阪市副市長として大阪のまちの整備計画に携わる田中清剛氏を招き、大阪市の「まちづくり」の歴史や現状、今後の方向性などについて話を聞いた。

田中氏は、大阪におけるまちづくりの近況のひとつとして、「うめきた2期」事業について説明。土地利用計画やまちの管理運営などを民間提案によって推進する計画について、平成25年末で40者(国内23者、海外17者)の提案があり、平成26年3月27日時点で、優秀な提案をした20者に決定したことを紹介した。また、特定地域の地権者から一律に負担金を徴収し、その地区の歩道や公園、地下道などの整備・維持・管理などを行う大阪版 BID(Business Improvement Districts)制度についても説明した。

さらに私見として、インフラの維持管理の時代にあっては、つくるだけでなく、壊す(あるいは保存する)ときのことを考えて事前にコンセンサスを得ておくことも必要だと強調した。